

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和5年7月16日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
8月2日(水) 13:00～17:00	日本学術会議 (ハイブリッド開催)	公開シンポジウム「数学教育の変遷～数理・データサイエンス・AI時代における数学教育の変革及び女性人材の登用に向けて」
8月4日(金) 14:00～16:00	オンライン開催	公開講演会「健康・幸福寿命の延伸に資するスマート歯科医学・歯科医療の実現」
8月5日(土) 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「社会的包摂ビジョン：孤独・孤立を越える」
8月10日(木) 13:30～15:00	東京大学 安田講堂	共同主催国際会議 市民公開講座「物理と情報の交差点」
8月12日(土) 13:00～15:30	郡山市ふれあい科学館23階宇宙劇場（ハイブリッド開催）	共同主催国際会議 市民公開講座「APRIM2023パブリックレクチャー」
8月19日(土) 14:00～17:05	名古屋市立大学病院大ホール	公開シンポジウム「第13回形態科学シンポジウム」
8月20日(日) 13:00～17:00	日本学術会議 (ハイブリッド開催)	学術フォーラム「SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発」
8月20日(日) 13:00～17:20	オンライン開催	公開シンポジウム「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来」
8月20日(日) 13:20～16:30	早稲田大学 国際会議場（ハイブリッド開催）	共同主催国際会議 市民公開講座「絵から飛び出した不可能立体の世界」
8月21日(月) 13:30～17:30	福井県立大学（ハイブリッド開催）	公開シンポジウム「宇宙や自然を探求しよう～新たな発見をめざす基礎研究の魅力～」
8月22日(火) 13:00～17:25	日本学術会議	公開シンポジウム「「こころの病」の脳科学」

8月24日(木) 18:00～20:15	札幌コンベンション センター 中ホール	共同主催国際会議 市民公開講座「持続可能な社 会を目指した電波科学が拓く未来」
8月26日(土) 13:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「生殖補助医療のこれから―社 会の合意に至るために考えること」
8月30日(水) 13:00～17:00	オンライン開催	学術フォーラム「深化する人口縮小社会の諸課題 ―コロナ・パンデミックを超えて」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・
公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

数学教育の変遷

数理工・データサイエンス・AI時代における

数学教育の変革及び女性人材の登用に向けて

数学が科学を記述する言葉であり、社会の基盤を支えていることから数学的な基礎力を身に付けることが必須となっている。歴史的に見れば、明治5年(西暦1877年)の学制頒布では自然科学・工学を学ぶためには西洋数学を学校で教授することとしたという変革があった。数理工・データサイエンス・AI時代において数学的な基礎力を身に付けた多様な人材育成、女性人材の育成が必要であるという「報告 数学教育の変革について」を準備中であり、江戸時代以降の数学教育の変遷を振り返りつつ、今日及び次の時代を見据えた数学・数理科学の教育に関わる議論を行い、社会発信の場とする。

Program 総合司会 伊藤 由佳理 (日本学術会議第三部会員、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授)

13:00 開会挨拶及び趣旨説明

真島 秀行 (日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授)

13:15 講演Ⅰ 『数学教育に活かそう「数学月間」の心』

谷 克彦 (NPO法人数学月間の会副理事長・元株式会社リコー中央研究所)

13:45 講演Ⅱ 『科学技術のイノベーションに必要なもの
—江戸時代にもあった異分野の研究者の交流—』

鳴海 風 (歴史小説家・元株式会社デンソー技術者)

14:30 パネルディスカッション「数学教育の変革について」

司会 清水 美憲 (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系教授)

渡辺 美智子 (日本学術会議連携会員、立正大学データサイエンス学部教授)

川添 充 (日本学術会議連携会員、大阪公立大学国際基幹教育機構教授)

高田 章 (日本学術会議連携会員、ロンドン大学特任教授)

西村 圭一 (日本学術会議連携会員(特任)、東京学芸大学大学院教授)

16:00 講演Ⅲ “OECD Learning Compass for Mathematics”

田熊 美保 (OECD 教育・スキル局(EDU)シニア政策アナリスト)

16:30 講演Ⅳ 『女性人材登用を我が国で円滑に進めるために』

平田(河野) 典子 (日本学術会議連携会員、日本大学理工学部特任教授)

17:00 閉会挨拶

清水 美憲 (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系教授)

令和5年 ハイブリッド開催

会場

8月2日(水)
13:00~17:00日本学術会議講堂
(東京都港区六本木 7-22-34)

一般参加可能

一般参加無料



お申し込み

下記URLもしくは2次元バーコードからアクセスしてお申し込みください。

URL https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_6hitTa13QZyV8Y69cL4RRA#/registration

主催 日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会、数理科学委員会 IMU分科会、数理科学委員会数学科会、数理科学委員会数理統計学分科会

後援 NPO法人数学月間の会、一般財団法人統計質保証推進協会、統計関連学会連合、一般社団法人日本応用数理学会、公益社団法人日本数学教育学会、一般社団法人日本数学会

上から下に図を見ると、江戸時代の「塵劫記」、「昭和時代の尋常小学算術」、平成最後で令和時代の現行「学習指導要領」における円周率の扱いの変遷がみられる。

日本学術会議・日本歯科医学会連合共催
公開シンポジウム

健康・幸福寿命の延伸に資する スマート歯科医学・歯科医療の実現

開会の挨拶

望月眞弓 日本学術会議副会長，第二部会員

住友雅人 日本歯科医学会連合理事長

座長

市川哲雄 日本学術会議会員，歯学委員会委員長

品田佳世子 日本学術会議連携会員

未来の学術振興構想

村上伸也 日本学術会議第二部会員，歯学委員会幹事

歯科医学・歯科医療の未来の学術振興構想

西村理行 日本学術会議第二部会員，歯学委員会副委員長

歯科医療分野でのAI，IOTの推進

佐々木 啓一 日本学術会議連携会員，宮城大学長

2040年への歯科イノベーションロードマップ

天野 敦雄 大阪大学大学院歯学研究科教授

Well-being実現で歯学，口腔科学に期待する

飯島 勝矢 日本学術会議連携会員，東京大学高齢社会総合
研究機構・未来ビジョン研究センター教授

UHCへ口腔保健推進を提案する

品田 佳世子 日本学術会議連携会員，東京医科歯科
大学大学院教授

閉会の挨拶

松村英雄 日本大学特任教授

日 時

令和5年8月4日（金）

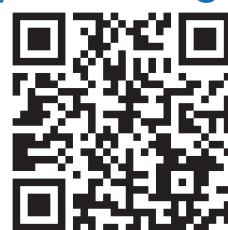
14:00～16:00

場 所

オンライン＋
オンデマンド開催

参加申込は日本歯科医学会連合
のWEBフォームよりお申し込み
ください。

<https://www.nsigr.or.jp/>



事前登録締切：7/27（木）15時

主催：日本学術会議 歯学委員会，臨床系歯学分科会

共催：日本歯科医学会連合

後援：日本生命科学アカデミー

【問い合わせ先】 一般社団法人 日本歯科医学会連合

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第3東郷パークビル4階

E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp / TEL: 03-3263-7701 / FAX: 03-3263-7761

公開シンポジウム 社会的包摂ビジョン：孤独・孤立を越える

開催趣旨：

2022年4月に「孤独・孤立と『つながり』の再生」と題するシンポジウムを開催し、多くの方々にご参加いただきました。今回は、昨年のシンポジウム以降の孤独・孤立政策の動向と、市民セクターおよび自治体の取り組みに関する報告をふまえ、個人の選択や自由、権利、既存の制度・社会・文化的枠組みの視点から議論を深め、現代における社会的包摂のビジョンを描きます。

日時：2023年8月5日（土）午後1時～4時

主催：日本学術会議 社会学委員会 経済学委員会 合同・包摂的社会政策に関する多角的検討分科会

後援：社会政策学会 日本社会福祉学会 福祉社会学会 日本社会福祉系学会連合 日本居住福祉学会
日本労働社会学会 女性労働問題研究会 労務理論学会 日本地域福祉学会 ジェンダー法学会
社会政策関連学会協議会

お問い合わせ：須田木綿子 yukosuda(a)toyo.jp・・・(a)を@に書き換えてお送りください。

参加申込

無料＆どなたでもご参加いただけます。定員800名。下記URLからお申込みください（7月31日締切）。当日までにURLをお送りします。お申込みいただいた方には、後日、期間限定で録画も配信します。

<https://forms.gle/58RCGgwpVNzdjyi26>

プログラム：

13：00～13：05 挨拶と趣旨説明（和気純子：日本学術会議会員・東京都立大学教授）

総合司会：岩崎晋也（日本学術会議連携会員・法政大学教授）

第1部：アクターと連携

13:05～13:25 国レベルの取り組み：孤独・孤立対策の有識者会議から
（宮本太郎：日本学術会議連携会員・中央大学教授）

13:25～13:45 ボランタリーセクターの取り組み：「市民セクターが社会的孤立に取り組むための8つの『提案』」（早瀬昇：大阪ボランティア協会理事長）

13:45～14:05 自治体の取り組み：東京都武蔵野市から（松下玲子武蔵野市長）

14:05～14:15 内容確認のための質疑

第2部：包摂へのビジョン

14:25～14:45 包摂される権利：犯罪をしたものの視点から
（丸谷浩介：日本学術会議連携会員・九州大学教授）

14:45～15:05 包摂されずにつながる：就職氷河期世代の経験から
（木本喜美子：日本学術会議連携会員・一橋大学名誉教授）

15:05～15:25 「昭和」の仕組みを超えて：社会的包摂の再構築
（大沢真理：日本学術会議連携会員・東京大学名誉教授）

15:25～16:00 フロアからの質疑と登壇者を交えての議論

16:00 閉会挨拶（須田木綿子：日本学術会議連携会員・東洋大学教授）

「もの」の本質を追求する物理学と「こと」をめぐる学問である情報科学とは、一見すると対極的なようですが、実は、さまざまなところで深くつながっています。そもそも、本国際会議の主題である統計物理学は、数多くの「もの」が集まったときに新たに生まれてくる「こと」を研究する物理学の分野なのです。古くから情報科学とも密接に関わってきました。西森秀稔さんは日本を代表する統計物理学の研究者です。統計物理学や量子物理学と現代的な情報科学を結びつけた重要な業績【スピングラスにおける「西森ライン」の発見とその情報科学への応用、量子アニーリングの方法の提唱】で世界的に知られています。本講演では、物理学の専門知識のない一般の方を対象に、量子アニーリングとその量子計算機での実装やスピングラスの統計物理学と情報の関わりについて話していただきます。物理法則に従うスピン（小さな磁石）たちが数多く集まったとき、情報を担い、高い計算能力を発揮するという驚くべきストーリーを発見者ご自身の解説でお楽しみください！



講演

西森秀稔

東京工業大学特任教授

市民公開講座

物理と情報の交差点

参加費無料・要事前申し込み



定員 先着1000名

申込URL <https://www.statphys28.org/publiclecture.html>

申込締切 2023年8月9日（水）（ただし定員を超えた時点で打ち切り）

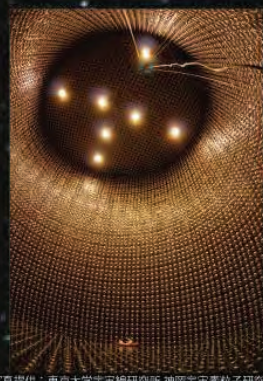
問い合わせ statphys28.loc@gmail.com

東京大学 安田講堂

2023年 8月10日 木

13:30~15:00(開場13:00)

公開講演会 APRIM2023 パブリックレクチャー



写真提供：東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設



かじた たかひろ
梶田 隆章先生
(日本学術会議会長／東京大学卓越教授)

(写真提供：東京大学宇宙線研究所)



むらやま ひとし
村山 斉先生
(カリフォルニア大学バークリー校教授／東京大学特別教授)

©ALMA (ESO/NAOJ/NRAO)/T. Kitayama (Toho University, Japan), ESA/Hubble & NASA

演題「神岡の地下から探る宇宙の謎」

神岡の地下では、巨大な装置を使って既に40年にわたってニュートリノの研究が行われてきました。近年では重力波観測をめざした研究も進められています。この講演では、ニュートリノや重力波の研究で、宇宙のどのようなことが今までにわかったのか、これから宇宙のどのような謎がわかるのかについてお話します。

演題「私たちはどこから来たのか」

今では私たちは星のかげらであることがわかっています。しかし星ができるためにはダークマターという「お母さん」が必要です。ダークマターが育てる種はインフレーションという「お父さん」が必要です。そして梶田先生が発見されたニュートリノの質量は、私たちを完全消滅から救ってくれた「スーパーヒーロー」だった可能性を示しました。こうして「私たちはどこから来たのか」という人類が長い間考えてきた問いに迫る科学の最先端についてお話します。

司会：林 左絵子先生 (APRIM2023 科学組織委員長／国立天文台准教授)
主催者挨拶：渡部 潤一先生 (APRIM2023 組織委員長／郡山市ふれあい科学館名誉館長)

日時 2023年 8 月 12 日 (土)

13:00～15:30

※入場は開始時刻の15分前からです。
※当日の宇宙劇場通常放映第1回目～5回目は休止となります。

会場 郡山市ふれあい科学館
23階宇宙劇場 および オンライン

参加方法

事前申し込み（現地参加の場合）

7月8日（土）10時より予約受付を開始します。

科学館ウェブサイト または 電話 にて

ウェブサイト：24時間受付／電話：開館日の10時～17時

定員：先着220名

※一度にお申し込みいただけるのは5名までとなります。

※予約の変更・キャンセルは前日の17時まで行えます。

※定員になり次第、受付を終了します。その場合、当日受付はありません。

オンライン

オンライン配信でご覧の場合は、当日科学館ウェブサイトから接続してください。

(事前申し込みは不要です。オンラインの人数制限はありません。)

ここに
QRコード
入ります

予約ページ

郡山市ふれあい科学館

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)



〒963-8002 福島県郡山市駅前二丁目11番1号（ビッグアイ20～24階）

■ウェブサイト：<https://space-park.jp>

■お問い合わせ：(TEL) 024-936-0201 (FAX) 024-936-0089

■Facebook / Instagram / YouTube / LINE で情報発信中



<講師プロフィール および 演題>

かじ た
梶田

たか あき
隆章先生

東京大学卓越教授・特別荣誉教授、
東京大学宇宙線研究所教授

東京大学理学部附属素粒子物理国際研究センター助手、東京大学宇宙線研究所助手、助教授を経て1999年9月より教授。2008年より2022年3月まで14年にわたり宇宙線研究所長を務める。

岐阜県飛騨市の神岡鉱山の地下1000メートルに設置された実験装置「カミオカンデ」と「スーパーカミオカンデ」を使った実験に参加。

「ニュートリノ質量の存在を示すニュートリノ振動の発見」により、2015年にノーベル物理学賞を受賞。1999年に仁科記念賞、2010年に戸塚洋二賞、2012年に日本学士院賞、2015年に文化勲章受章、文化功労者。

現在は、大型低温重力波望遠鏡KAGRAのリーダーも務める。

演題：「神岡の地下から探る宇宙の謎」

神岡の地下では、巨大な装置を使って既に40年にわたってニュートリノの研究が行われてきました。近年では重力波観測をめざした研究も進められています。この講演では、ニュートリノや重力波の研究で、宇宙のどのようなことが今までにわかったのか、これから宇宙のどのような謎がわかるのかについてお話しします。



(写真提供：東京大学宇宙線研究所)

むら やま

ひとし

村山 斉先生

カリフォルニア大学バークレー校教授
東京大学特別教授

素粒子からダークマター、宇宙が急速に膨張している理由に至るまで、自然界の根幹に関わる謎の解明に取り組む。1991年に東京大学で理論物理学の博士号を取得した後、ローレンス・バークレー国立研究所上級研究員、カリフォルニア大学バークレー校MacAdams冠教授(現職)。2007年10月には、東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の初代機構長に任命され、11年間機構の立ち上げ・運営に尽力し、その功績から2019年東京大学特別教授の荣誉を受ける。

現在も同機構の教授として、日米を行き来しながら精力的に研究に従事している。

西宮湯川記念賞(2002)、米物理学会フェロー(2003)、中央公論新社 新書大賞「宇宙は何でできているのか」(2011)、基礎物理学ブレイクスルー賞：カムランド実験メンバー(2016)、フンボルト財団研究賞(2017)、米国科学振興協会(AAAS)フェロー(2022)
米国芸術科学アカデミー会員、日本学術会議連携会員

演題：「私たちはどこから来たのか」

今では私たちは星のかげらであることがわがっています。しかし星ができるためにはダークマターという「お母さん」が必要です、ダークマターが育てる種はインフレーションという「お父さん」が必要です。そして梶田先生が発見されたニュートリノの質量は、私たちを完全消滅から救ってくれた「スーパーヒーロー」だった可能性を示しました。こうして「私たちはどこから来たのか」という人類が長い間考えてきた問いに迫る科学の最先端についてお話しします。

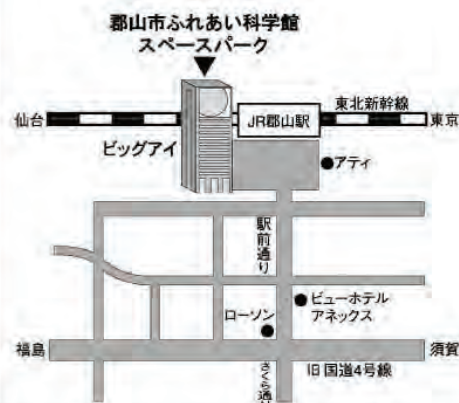


<APRIM2023 とは？>

2023年8月、郡山市で国際天文学連合(IAU)などが主催する「アジア太平洋地域の天文学についての国際会議(APRIM2023)」が開催されます。

天文学関連の広範な分野を総合的に議論し、研究交流を促すための国際会議で、3年に一度開催されるAPRIMにはアジア太平洋地域を中心とした海外および国内から約500名の天文学者が集まります。日本での開催は2002年以来となります。日本・郡山での開催は、日本の天文学の研究力の高さと、復興日本を世界へ発信する絶好の機会となるでしょう。

この公開講演会はAPRIM2023の企画の一環で、世界を代表する研究者が最先端の天文学の話題を一般の方向けにわかりやすく紹介します。



2023年 日本学術会議 第13回形態科学シンポジウム

生命科学の魅力を語る

高校生のための集い

～再生のしくみと応用～

参加費
無料

2023.8.19(土)
名古屋市立大学
医学部研究棟11階講義室A

オンライン
同時開催

名古屋市立大学では、高校生を対象に第一線で活躍する研究者との交流を通じて、生命科学の魅力をお伝えします。遺伝子や細胞、再生医療など、医学・生物学の研究領域のご興味のある高校生の参加をお待ちしております。皆さんの「なぜ？」にもお答えします！

プログラム

14:00 開会あいさつ 渡辺雅彦（北海道大学大学院医学研究院教授）

講演① 『複雑な形態の再生メカニズムを解読する』

阿形 清和（基礎生物学研究所長） 司会 桑昭苑（東京工業大学生命理工学院教授）

講演② 『再生医療のフロンティア-ヒト臓器を創る！』

谷口 英樹（東京大学医科学研究所教授） 司会 門松健治（名古屋大学統括副総長）

15:45 パネルディスカッション -現役研究者になんでも聞いてみよう！-

司会 澤本和延（名古屋市立大学大学院医学研究科脳神経科学研究所教授）

パネリスト
阿形清和（基礎生物学研究所長）
門松健治（名古屋大学統括副総長）
小林武彦（東京大学定量生命科学研究科教授）
谷口英樹（東京大学医科学研究所教授）
仲嶋一範（慶應義塾大学医学部教授）
渡辺雅彦（北海道大学大学院医学研究院教授）

岡部繁男（東京大学大学院医学系研究科教授）
桑昭苑（東京工業大学生命理工学院教授）
塩見美喜子（東京大学大学院理学系研究科教授）
月田早智子（東京大学先端総合研究機構教授）
坂内博子（早稲田大学理工学術院教授）

17:00 閉会あいさつ 小林武彦（東京大学定量生命科学研究科教授）

申込方法

WEBサイトからお申し込み

▶ <https://ttzk.graffer.jp/city-nagoya/smart-apply/apply-procedure-alias/keitakagaku>

お問い合わせ ▶ saiseisc@med.nagoya-cu.ac.jp

※参加者氏名、メールアドレスを明記してください。



日本学術会議主催学術フォーラム SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発



2023 年8月20日(日) 13:00~17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34、地下鉄千代田線乃木坂駅出口 5 青山霊園側）
オンライン併用

申込みURL：<https://form.cao.go.jp/sci/opinion-0231.html> 締切 8月18日、参加費無料です。

問合せ先：鈴木康弘（名古屋大学減災連携研究センター、resilience.nagoya@gmail.com）



企画：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
後援：Future Earth 国際事務局日本ハブ、地理学連携機構、日本ESD学会、(一社)日本環境教育学会、ESD活動支援センター、NPO法人ESD-J、(公財)ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、(公財)笹川平和財団海洋政策研究所、人間文化研究機構総合地球環境学研究所

国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組が広がり、小中高の教科書でも多く取り上げられています。これを成功させるには、多くの国際持続性研究プログラムを束ねるフューチャー・アースとの連携とともに、幅広い環境教育で実績のあるESD（持続可能な開発のための教育）の推進が重要です。そのようなSDGsに資するESDカリキュラムの開発について、研究者や教員の報告を参考に皆で考えましょう。中高生、大学生、一般の皆様も是非ご参加ください。

総合司会：鈴木 康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
嵩倉 美帆（公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所研究員）

開会挨拶・趣旨説明（13:00~13:10）

水見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）

第Ⅰ部 初等教育のカリキュラム開発（13:10~13:55）

報告1「ようこそ昆虫ワールドへ：創作活動と接続した環境学習」

新井 雅晶（東京都足立区立北鹿浜小学校前副校長）

報告2「実験と観測データに基づく海洋教育の教材開発」

丹羽 淑博（日本学術会議特任連携会員、国立極地研究所特任研究員）

報告3「水族館における学校と連携した教育普及活動の実践と課題」

天野 未知（公益財団法人東京動物園協会教育普及センター長）

第Ⅱ部 中等教育のカリキュラム開発（13:55~14:40）

報告4「海洋ごみ問題への取り組みを通じた中高生の学びと成長」

井上 貴司（山陽学園中学校・高等学校教頭補佐・地歴部顧問）

報告5「東アジアで平和教育を進めるために何が必要か？」

小林 亮（日本学術会議特任連携会員、玉川大学教育学部教授）

報告6「魚介類の3D模型を活用した ESD 教材開発」

小川 博久（武蔵野大学非常勤講師）、小川 展弘（東京大学大気海洋研究所技術専門職員）

休憩（14:40~14:55）

第Ⅲ部 高等教育と教員研修のカリキュラム開発（14:55~15:40）

報告7「大学地理教育を通じたSDGs・ESDの推進」

小田 宏信（日本学術会議特任連携会員、成蹊大学経済学部教授）、財城真寿美（成蹊大学経済学部教授）

報告8「児童生徒の行動変容につながるSDGs教員研修とは」

本図 愛実（宮城教育大学教職大学院教授）、市瀬 智紀（宮城教育大学教育学部教授）

報告9「持続可能な未来を創る N 助型減災教育研修プログラム」

及川 幸彦（奈良国立大学機構・奈良教育大学准教授）

ディスカッション（15:40~16:55）

司会：窪川 かおる（日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構客員教授）

コメンテーター：

春日 文子（日本学術会議連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授）

日置 光久（日本学術会議連携会員、学校法人希望が丘学園・学園統括顧問）

ユースコメンテーター：数名

閉会挨拶（16:55~17:00）

谷口 真人（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長・教授）

12:00~17:30 に会場入り口前のロビーで関連するポスターの展示も行われます。

【公開シンポジウム】

オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来

地球惑星科学における学術試料、学術データは、地球・惑星の歴史資料であり、逸失すれば取り戻せない人類社会が共有すべき知的財産である。それらの整備、保存、管理は、学術研究にとって不可欠であると同時に、将来における気候変動・災害対応、および予測しがたい未来の人類社会の生存と持続可能な発展のための基礎情報である。本シンポジウムでは、こうした試料、データの共有や管理、保存、利活用等の問題を、サイエンスする立場から議論する。

2023年

オンライン開催

8.20 (日) 13:00-17:20

プログラム

参加費：無料

対象：どなたでも参加できます。申込は下記。

申込フォーム：<https://forms.gle/3rh99tgcxH3hM8iu5>

*参加申込された方に当日までに参加URLをメールでお知らせします。

問合先：
国立研究開発法人情報通信研究機構
村山 泰啓 (murayama[a]nict.go.jp)
愛媛大学大学院理工学研究科
堀 利栄 (hori.rie.mm[a]ehime-u.ac.jp)



総司会：村山 泰啓 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構NICTナレッジハブ研究統括・ナレッジハブ長(兼))

- 13:00-13:15 開会挨拶 中村 卓司 (日本学術会議会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所・所長)
趣旨説明 (総司会)
13:15-13:30 開会にあたって 木村 学 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー、東京大学名誉教授)

第1セッション「オープンサイエンス時代における学術データ共有とサイエンス」

司会：金尾 政紀 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設・准教授)

- 13:30-13:50 「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来～政策側の視線から」
林 和弘 (日本学術会議特任連携会員、文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室・室長)
13:50-14:10 「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来～学術コミュニティ側の視線から」
村山 泰啓 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構NICTナレッジハブ・研究統括・ナレッジハブ長(兼))
14:10-14:30 「学協会における論文出版と研究データ保存管理」
大谷 栄治 (日本学術会議連携会員、東北大学客員研究者・名誉教授)
14:30-14:50 「国立環境研究所におけるデータ駆動型科学の推進とそれを支えるデータ基盤」
三枝 信子 (日本学術会議会員、国立研究開発法人国立環境研究所 地球システム領域・領域長)

休憩 (20分)

第2セッション「学術試料散逸・保管のチャレンジと課題」

司会：堀 利栄 (日本学術会議会員、愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授)

- 15:10-15:30 「国際深海科学掘削計画 (IODP) 等のコア試料の学術機関における保管問題」
池原 実 (高知大学海洋コア国際研究所・教授)
15:30-15:50 「博物館における地球惑星系標本保管の諸問題」
齋藤めぐみ (国立科学博物館地学研究部・研究主幹)
15:50-16:10 「自然史系学術試料散逸問題と自然史財法の可能性」
西田治文 (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部生命科学科・教授)
16:10-16:30 「宇宙・地球研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築の提案」
小宮 剛 (東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授)

総合討論 (総司会)

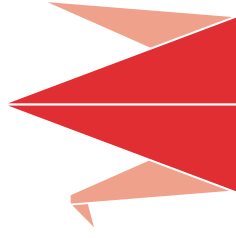
- 16:30-17:10
コメント：森田澄人 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター地質標本館・館長)
コメント：白井知子 (国立研究開発法人国立環境研究所 地球システム領域地球環境データ統合解析推進室・室長、研究データ利活用協議会研究データへのDOI登録促進小委員会・前委員長)
17:10-17:20 閉会の挨拶 木村 学 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー、東京大学名誉教授)



主催：日本学術会議 地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会

後援：公益社団法人日本地球惑星科学連合(JpGU)・一般社団法人日本地質学会

Welcome to Waseda, Tokyo, Japan



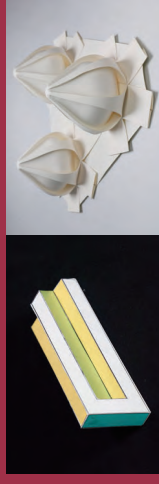
10th International Congress on

Industrial & Applied MATHEMATICS

ICIAM 2023 TOKYO

Waseda University
Aug. 20 – 25, 2023

Old meets New
TokyoTokyo



錯覚と折紙に関する
市民講演会

8月20日・23日13:20から早大国際会議場

入場無料
8月20日：杉原 厚吉 先生
8月23日：三谷 純 先生

小中高生歓迎



世界最大級の応用数学の国際会議が、早稲田大学にやってくる。日本初開催。

／ 公開シンポジウム ／

宇宙や自然を 探求しよう

新たな発見をめざす基礎研究の魅力

2023 8.21 MON

13:30 開会 ▶ 17:30 終了
福井県立大学永平寺キャンパス（講堂）

参加
無料

※事前予約制

スーパーカメラカンデ
Super
Kamiokande
背景写真

★ 2015年ノーベル物理学賞受賞 ★

基 調 講 演 講 師

梶 田 隆 章

東京大学宇宙線研究所・教授

梶田先生は、宇宙から降り注いだ大気ニュートリノが理論的に予測された数よりも少ないことに気づき「ニュートリノ」に質量があることを、世界で初めて、明らかにしました。それまでの素粒子科学の常識を覆す大発見だったことから、2015年にノーベル物理学賞を受賞しました。

神岡の地下から探る
宇宙の謎

宇宙や自然には、まだ多くの分からないことがあります。失敗を繰り返しながら、真理を探求することで、ノーベル賞につながるような新たな発見にたどり着きます。それが基礎研究の大きな魅力であり面白さです。本シンポジウムでは、ニュートリノをはじめ宇宙や地球の姿を明らかにする研究を紹介します。そして、新たな発見をめざす基礎研究の重要性や魅力を感じていただき、次世代の若者たちと共に地球の未来や取り組みたい研究について考えます。

講演①



三枝信子

国立研究開発法人国立環境研究所
地球システム領域領域長

地球をめぐる温室効果ガス
～温暖化は止められるのか?～

講演②



原田尚美

東京大学大気海洋研究所附属
国際・地域連携研究センター教授

極域の海氷に棲む未知の生物たちの話
～北極と南極の海氷下の観測から～

講演③



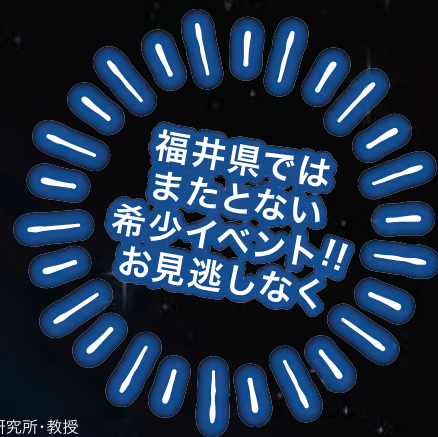
河部壮一郎

福井県立大学
恐竜学研究所・准教授

CTスキャンで恐竜の秘密に迫る
～恐竜の脳や神経の解析～

Time schedule

タイムスケジュール



13:30 - 13:40

開会挨拶

13:40 - 14:40

梶田 隆章 | 東京大学宇宙線研究所・教授

「神岡の地下から探る宇宙の謎」

14:40 - 15:10

三枝 信子 | 国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長

「地球をめぐる温室効果ガス
～温暖化は止められるのか?～」

15:10 - 15:40

原田 尚美 | 東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授

「極域の海氷に棲む未知の生物たちの話
～北極と南極の海氷下の観測から～」

15:40 - 15:55

休憩

15:55 - 16:25

河部 壮一郎 | 福井県立大学恐竜学研究所・准教授

「CTスキャンで恐竜の秘密に迫る
～恐竜の脳や神経の解析～」

16:25 - 17:25

総合討論（各地の高校生との討論会）

別会場あり: 富山大学サテライト会場（理学部多目的ホール）

17:25 - 17:30

閉会挨拶

“どなたでも”
ご参加いただけます!!



参加お申込方法

携帯電話で右記QRコードを読み取り
応募フォームからお申込みください。

▼下記のURLからもお申込みが可能です。
<https://forms.gle/tAY2Rqe2Wst9UNVC6>



お申込みフォームは
こちら

総合討論会開催

研究者達と
直接交流のチャンス

参加方法は会場参加、オンライン配信の2通り

お申込み
締め切り

2023

SUN

7.30

交通案内

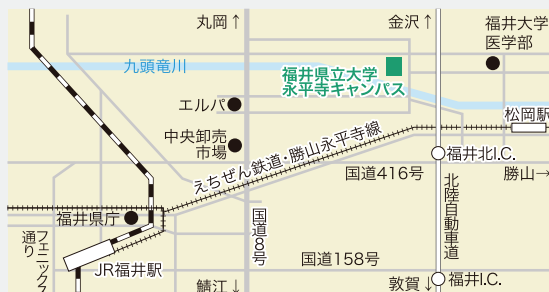
P 駐車場500台完備

乗用車

JR福井駅前より約20分
北陸自動車道 福井北I.Cより約10分

京福バス

JR福井駅西口バスターミナル
大学病院線「県立大学」下車
(所要時間約40分)



公立大学法人

福井県立大学

Fukui Prefectural University

〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

TEL. 0776-61-6000

URL. <https://www.fpu.ac.jp/>

「こころの病」の脳科学

令和 5 年

8.22 (火) 13:00 ~ 17:25

【開会の辞】

日本学術会議連携会員、脳とこころ分科会委員長

高橋 良輔 (京都大学教授)

【開会の挨拶】

日本学術会議会長

梶田 隆章 (東京大学卓越教授)

日本学術会議第二部部長

武田 洋幸 (東京大学副学長)

【閉会の挨拶】

日本学術会議第二部会員、神経科学分科会委員長

伊佐 正 (京都大学教授)

日本学術会議連携会員、アディクション分科会委員長

池田 和隆 (東京都医学総合研究所、分野長)

【演題】

精神疾患を対象とするゲノム医療の現状と方向性：
ゲノム医療法の状況を踏まえて

尾崎 紀夫 (日本学術会議会員第二部幹事、名古屋大学大学院医学系研究科、特任教授)

シナプス：神経細胞のつながりが不具合を起こす時

林 (高木) 朗子 (日本学術会議連携会員、理化学研究所、脳神経科学研究センター、チームリーダー)

人工知能を用いた仮説検証型とデータ駆動型の精神医学研究

高橋 英彦 (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科、教授)

注意欠如・多動症 (ADHD) —その中核と輪郭

岡田 俊 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所、部長)

自閉症の脳科学

内匠 透 (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院医学研究科、教授)

うつ病・双極症の脳科学

加藤 忠史 (日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学系研究科、教授)

【総合討論】

指定発言者：

池淵 恵美 (日本学術会議連携会員、帝京大学医学部精神神経科学講座、客員教授・帝京大学名誉教授)

北中 淳子 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部人間科学専攻/社会学研究科、教授)

大隅 典子 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院医学系研究科、教授)

影本 菜穂子 (読売新聞、医療部記者)

家田 有美子 (講談社、学芸第二出版部副部長)

尾崎 紀夫 (日本学術会議会員第二部幹事、名古屋大学大学院医学系研究科、特任教授)

加藤 忠史 (日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学系研究科、主任教授)



■場 所：日本学術会議講堂 (後日、YouTube 配信予定)

■申し込み：不要

■会費：無料

〒106-8555

東京都港区六本木 7-22-34

FAX：03-3403-1260

(アクセス)

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口



主 催：日本学術会議 臨床医学委員会 脳とこころ分科会、基礎医学委員会 神経科学分科会、
基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 アディクション分科会

後 援：日本医療研究開発機構

お問い合わせ先：理化学研究所 事務局：akiko.hayashi-takagi@riken.jp, yasuko.hisano@riken.jp



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

市民公開講座

持続可能な社会を目指した 電波科学が拓く未来

講演①

宇宙太陽光発電と無線電力伝送

北海道大学 名誉教授
大宮 学



講演②

Society 5.0 を実現するためのフォトニックネットワーク ー光ファイバと超大容量通信ー

北海道大学 大学院情報科学研究院 准教授
藤澤 剛



参加費
無料

日時

2023年8月24日(木) 18:00~20:15

会場

札幌コンベンションセンター 中ホール

北海道札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

プログラム

【司会】 富山県立大学 工学部 教授 石坂 圭吾

18:00 開会のあいさつ

URSI GASS 2023 組織委員会委員長
北海道大学 名誉教授 小柴 正則

18:05 講演①

「宇宙太陽光発電と無線電力伝送」

北海道大学 名誉教授 大宮 学
座長：北見工業大学 工学部 教授 柏 達也

19:15 講演②

「Society 5.0 を実現するためのフォトニックネットワーク
ー光ファイバと超大容量通信ー」

北海道大学 大学院情報科学研究院 准教授 藤澤 剛
座長：室蘭工業大学 大学院工学研究科 教授 辻 寧英

20:10 閉会のあいさつ

URSI GASS 2023 大会委員長
中央大学 理工学部 教授 小林 一哉

対象

高校生、高等専門学校生、
大学生、企業の研究者・技術者、
一般参加者

お問い合わせ

URSI GASS 2023 市民公開講座および
体験型イベント実行委員会

E-mail: URSIGASS2023.event@gmail.com

※電子メールにてお問い合わせください。

主催

URSI GASS 2023 市民公開講座および
体験型イベント実行委員会
日本学術会議

協賛

札幌コンベンションセンター

後援

文部科学省 日本政府観光局(JNTO) 北海道
札幌市 北海道教育委員会 札幌市教育委員会
札幌コンベンションビューロー

公開シンポジウム
「生殖補助医療のこれから－社会の合意に至るために考えること」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会生殖補助医療と法分科会
2. 共 催：科学研究費（基盤研究（B））「包括的生殖補助医療法の制定に向けて」
（研究代表者：水野 紀子）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）8月26日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本分科会の前身である課題別委員会・生殖補助医療の在り方検討委員会は、厚生労働大臣及び法務大臣の審議依頼を受けて代理懐胎の是非及び代理懐胎による出生子の法的親子関係について検討を行い、平成20年1月31日に公開講演会「生殖補助医療のいま－社会的合意を求めて」を開催した。併せて、同年4月8日に対外報告「代理懐胎を中心とする生殖補助医療の課題－社会的合意に向けて－」を公表し、同月16日には、両大臣にその骨子をまとめた「回答」を提出した。それから15年。「回答」の精神の一部は、令和2年成立の「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」に取り入れられ、さらなる立法も予定されている。しかし、未だ実現していないものも多い。また、「回答」では提言を示さず、後の課題とした代理懐胎以外の生殖補助医療をめぐる問題も少なくない。社会の変化、技術の発達、国際的な動きが加速する中で、改めて、「回答」をふりかえり、今後の生殖補助医療とそれを取りまく立法の在り方について検討する必要がある。

シンポジウムでは、社会科学、人文科学、自然科学から医学まで、幅広い分野の第一線の研究者が集う日本学術会議のメリットを存分に生かし、今後の生殖補助医療に関する立法問題を考えていく上で避けて通れない最先端の問題、忘れられていた問題等を明らかに

する一方、問題を考える視点となるべき根源的問い、国際社会の動向等を取りあげる。いずれも、学界の最高の知見をふまえつつ、それを、アカデミアのみならず、一般国民に分かりやすく伝えることを目的としている。生殖補助医療をめぐる法律問題は、人類の歴史と未来に深く関わり、本来的に、アカデミアのみに委ねられるべき問題ではない。このような問題について、国民に、その検討の基礎となる正確な学問的情報を伝えることは、日本学術会議に課された使命の一つである。

9. 次 第：

総合司会：柘植 あづみ（日本学術会議連携会員、明治学院大学社会学部教授）

13:00～13:05 開会挨拶

水野 紀子（日本学術会議第一部会員、白鷗大学法学部教授）

13:05～13:45 第1セッション

「生殖補助医療、いま、何が問題かー生殖補助医療と日本学術会議」（仮）

司会：三宅 秀彦（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

「生殖補助医療技術とその現状」（仮）

久具 宏司（日本学術会議連携会員（特任）、東京都立墨東病院産婦人科部長）

「生殖補助医療をめぐる問題」（仮）

西 希代子（日本学術会議連携会員慶應義塾大学大学院法務研究科教授）

13:45～14:45 第2セッション

「生殖補助医療が問いかけるものー一人間の尊厳、人権、権利、そしてその先へ」（仮）

モデレーター：小浜 正子（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

「生殖補助医療をめぐる人々ー家族形成から見えてくる生殖補助医療を問う」（仮）

吉沢 豊予子（日本学術会議連携会員、東北大学大学院医学系研究科教授）

「生殖補助医療の法制化で問われる生命倫理、尊厳、自己決定権および生命権」（仮）

建石 真公子（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）

「子の出自を知る権利とドナーの尊厳」（仮）

二宮 周平（日本学術会議連携会員、立命館大学名誉教授）

14:45～15:00 休憩

15:00～16:00 第3セッション

「生殖補助医療と法—なにを、どのように、立法すべきか」（仮）

モデレーター：後藤 弘子（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院社会科学研究院教授）

「日本の現状」（仮）

窪田 充見（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院法学研究科教授）

「国際社会の動き」（仮）

早川 眞一郎（日本学術会議連携会員、専修大学法科大学院教授）

「科学と社会と法」（仮）

石井 哲也（日本学術会議連携会員、北海道大学安全衛生本部教授）

16:00～16:15 コメント

コメンテーターは、前回シンポジウム（平成20年学術会議主催公開講演会）関係者を中心に調整中

16:15～16:45 質疑応答

会場からの質問を受ける予定

16:45～17:00 閉会挨拶

水野 紀子（日本学術会議第一部会員、白鷗大学法学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認、第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

(詳細調整中)

日本学術会議・学術フォーラム

深化する人口縮小社会の諸課題

コロナ・パンデミックを超えて

2023年8月30日 13:00～17:00

オンライン開催

申込先：

人口縮小社会・日本が直面してきた諸課題（労働、ジェンダー、社会的分断、医療、研究力等）は、コロナ・パンデミックによって一層顕在化し、深刻さを深めつつあります。このような動向は、世界的なものですが、日本では問題の進行が早いといわれています。本フォーラムでは、個別分野に閉じない幅広い議論を行います。

開会の挨拶&開催趣旨

遠藤薫（日本学術会議連携会員、学習院大学名誉教授）

講演（13:10-14:50）

金子 隆一（日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部特任教授）

西浦 博（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授）

浅川 智恵子（日本学術会議連携会員、IBM Corp.IBM Fellow）

落合 恵美子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科教授）

外部識者（未定）

パネル討論（15:00-16:50）

討論者

荒井 秀典（日本学術会議第二部会員、国立長寿医療研究センター理事長）

水口 雅（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、
心身障害児総合医療療育センターむらさき愛育園園長）

石井クンツ昌子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学理事 兼副学長）

山田あすか（日本学術会議連携会員、東京電機大学未来科学部建築学科教授）

